

障害者に優しい街へ バリアフリー考える

熊本市 市民ら歩道など点検

市街地のバリアフリーについて考える「まちあるきワークショップ」が18日、熊本市中央区であり、市民が大西一史市長や市職員と歩き、歩道の広さや段差など障害者の視点で改善点を探った。

6月に予定する市バリアフリーマスタープラン策定に向けた取り組みの一環で市が企画。今回、大西市長が初参加した。

担当課の市職員や市民ら45人が参加し、市役所（手取本町）から県総合福祉センター（南千反畑町）までの約1キロを点検。大西市長は街路樹の根で盛り上

熊本大付属幼稚園前で、街路樹の根の影響で亀裂が入った歩道を写真に収める大西一史市長（熊本市中央区）



がった歩道、地震や劣化でくぼんだ道路を車いすで通行し、身体障害者から苦勞した体験や要望を聞き、問題箇所を写真に収めた。

大西市長は「車いすで行き、少しの段差や傾斜でも恐怖を感じた。市民にもっとバリアフリーについて

考えてもらえるよう、動画やSNSを通じて情報を発信したい」と語った。

参加者は同センターで問題点を発表。崇城大3年の松崎萌花さん（23）は「改善点を解消し、障害者だけでなく、すべての人に優しい街になってほしい」と話した。（米本充宏）